

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2017

9月

No.147



特集

P2・3

あの人を、すべての人を、支えたい。

赤い羽根共同募金運動

赤い羽根共同募金 2017

ひ孫と
いっしょ

シリーズ146

波賀町上野

いけがき しげる
池垣 茂さん(89歳)

あい ち
○愛来さん(15歳)

たく と
○拓星くん(11歳)

としゆき ゆきえ
池垣 敏幸さん・幸枝さん

■長男・長女

赤い羽根 共同募金運動

あの人を、すべての人を、支えたい。

赤い羽根は小さなことをしています。

たくさん

小さなことかもしれないけれど、困っている人にとっては大事なこと。
その小さなことを、日本全国たくさんの場所で活動している。
ということは、「大きなことをしている」と言ってもいいのかもしれませんが。
赤い羽根はこれからも、テレビや新聞のニュースで取り上げられない
小さなことにも心を配って活動していきます。

あの人を、すべての人を、支えたい。

赤い羽根共同募金



平成29年度ポスター

小さなことかもしれないけれど、困っている人にとっては大事なこと。
その小さなことを、日本全国たくさんの場所で活動している。
ということは、「大きなことをしている」と言ってもいいのかもしれませんが。
赤い羽根はこれからも、テレビや新聞のニュースで取り上げられない
小さなことにも心を配って活動していきます。

10月1日、スタートです！
あたたかいご協力をお願いします。



共同募金の歴史

今年は創設70周年!

赤い羽根共同募金は、第二次世界大戦後の昭和22年(1947年)に、「国民たすけあい運動」として始まり、今年創設70周年となりました。

その後、時代の変化に応じ募金の目的や使い途も変わり、現在では、『じぶんの町を良くするしくみ。』として、貧困や社会的孤立など様々な地域の福祉課題の解決に役立っています。



共同募金のしくみ

募金の9割は集めた地域に!

災害で集まった募金は、兵庫県共同募金会に送金し、次の年、その約9割が災害に戻り、災害の地域福祉活動を支えます。

残りの1割は、市域を超えた広域的な課題を解決するために活用されるほか、大規模災害発生時には、災害ボランティアセンターの設置や運営費用として活用されます。



募金の使い途

災害を良くする活動に

今年度
募金目標額
850万円

平成28年度、災害では843万円もの募金をお寄せいただきました。今年度そのうちの約9割、746万3千円が「共同募金配分金」として災害に戻り、下記のとおり地域福祉を推進するために活用されています。

- ・自治会での福祉活動の推進に 420万円
- ・だれもが気軽に集える居場所づくりに 30万円
- ・社協の配食サービスに 75.4万円
- ・こどもホームステイ事業に 30万円
- ・民間保育園や障がい者作業所の活動支援に 57万円
- ・災害の福祉情報の発信に 133.9万円

共同募金への参加

毎年全国で200万人が活動

共同募金運動は、年間200万人といわれるボランティアの皆さんに支えられています。

災害でも、自治会長、福祉委員などたくさんの方の協力で募金運動を展開しています。



- 戸別募金** 自治会から各ご家庭に呼びかけていただきます
- 法人募金** 企業やお店を訪問して依頼します
- 職域募金** 職場単位で募金を依頼します
- 学校募金** 児童・生徒に募金を呼びかけます
- その他、イベントや街頭でも募金を呼びかけます

◆日程◆

- 10月2日(月)
 - ・Aコープちくさ店 午前11時～
 - ・Aコープ波賀店 午後4時30分～
- 10月3日(火)
 - ・咲ランドショッピングセンター 午前10時～
- 10月11日(水)
 - ・道の駅播磨いちのみや 午前10時30分～



問い合わせ先
宍粟市共同募金委員会(宍粟市社協内)
☎72-8787

街頭募金ボランティア
募金箱設置事業所 募集!

宍粟市共同募金委員会では、共同募金運動中に、市内のイベントや大型店舗等を行う街頭募金活動に協力いただけるボランティアを募集しています。

左記の日程で行いますので、ご協力いただける方はお気軽にお電話ください。また募金箱を設置していただける企業、お店も募集しています。ご協力をお願いします。



やさしさ
まさき

子育て世代も頑張ってます

宍粟市立都多小学校PTA

8月18日(金)、午後7時30分、宍粟市立都多小学校体育館に、仕事を終えたお父さんお母さんが、次々と集まってきました。

2日後に開催される山崎町連合PTAバレーボール大会の最後の練習日です。

都多小学校の全児童数は市内最少の35名、PTA会員数は25名。
小田耕(おだこう)

治体育部部長は、「少人数なので、団結力はすごいんですよ。子どもあにええとこ見せなあかんでね」と、和気あいあい練習に汗を流されていました。

休憩になると、子どもが駆けつけ、「おっちゃん、試合勝つてよ」「宿題しよんかあ」と、自然と輪になり、和やかな



「そろそろ練習しようですよ」休憩中も、子どものこと、家のこと、田んぼのこと、地域内外のことなど話は尽きません(都多小学校体育館)

ムードで話が弾みます。

大会当日は、子どもや家族も応援に駆け付け、地域みんなで盛り上げておられるとお聞きし、どんな行事も協力し助け合い活動されていると感じました。PTAの取り組みは、児童や学校の環境のためだけではなく、親同士の情報共有の場や、地域づくりの話し合いの場にもなっています。

今後も、さまざまなPTA活動を通して、地域を盛り上げて行つて欲しいと思います。

(山崎支部 山本めぐみ)

い
ちのみや

みんなで支え合って村おこし

あこがれ千町の会

千町は、一宮町北部の標高1000メートルの山に囲まれた世帯数15戸の集落です。

「あこがれ千町の会」は、8年前に地元と都市住民で結成され、休耕田を活用した野菜作りや販売、集落の行事を通して村おこしをしています。

たくさんの人に千町を知って欲しい、そして活動を応援してくれる人との交流を深めたいとの思いで、毎年夏祭りを開催しています。

8月20日(日)、会場となる上千町集会所に40人が集まり、会食やゲーム、カラオケなど楽しい時間を過ごしました。

「千町はええとこ。集落のことを全戸参加で取り組むのがすごい。元気をもらいますね」と、伊丹市から参加の松田さん。

「集落のことも野菜作りもみんなできりよる。わしも毎日、野



収穫した野菜の天ぷらが振るまわれ、みんなで楽しみました(上千町集会所)

菜の出荷をしよるんやで」と、地元の久後勝美さん(83歳)が笑顔で話されました。

天役の草刈やとんどなど、集落の生活を支える行事においても、都市住民と力を合わせて行い、つながりを深めています。

千町の宝物である都市住民との交流。社協では、このようなみんなで支え合って進める村おこしを応援していきます。

(一宮支部 上川あゆみ)

や・い・は・ち トピックス

は
が

8月28日(月)、有賀農村広場へお伺いすると、子どもたちといっしょに老人クラブのみなさんがラジオ体操をされていました。

有賀老人クラブでは、子どもとの交流や見守り活動の一環として、平成26年からラジオ体操に参加しています。



ラジオ体操や学校に行く時も、おじいちゃんたちがおるから楽しいでえ(有賀農村広場)

老人クラブが地域の見守り役

有賀のラジオ体操

この日は子ども7人と老人クラブの方々17人が集まりいっしょに体を動かしました。「昔と違い子どもが少なくなる中で、子どもたちと顔を合わせることが大切になっています」と志水眞治老人会長。

また、平時から老人クラブのメンバーが中心となり、見守り隊として学校の登下校や子どもたちが地域で安全に遊べるように目を配っています。

そして、これらの活動が毎年自治会で行われる「福祉座談会」で日々の気づきや課題として報告され、子どもや高齢者の見守り活動を自治会全体で共有することにもつながっています。

このように、有賀自治会では、日中地域にいる老人クラブのみなさんが子どもたちの、そして地域全体の見守り役として大きな役割を担っています。

(有賀支部 田中祥仁)

自治会長がリーダーシップを発揮

スポーツ大会でふれあいの場

8月20日(日)、黒土と河内自治会でスポーツ大会が開催されました。

千種小体育館で行われた「黒土ふれあい運動会」には81人が参加され、スカットボールで熱戦を繰り広げました。

「簡単そうで難しいわ」「うちの隣保ええことしよるで」とプレーは続き、一打ごとに「あゝ惜しい」と拍手で盛り上がっていました。

午後には、「河内ふれあいスポーツ大会」が中ノ宮神社で行われ、24人がグラウンドゴルフで汗を流しました。

「入らんでよ、こは難しいわ」「止まれや。止まれや」…境内を走り回るプレイヤーのみなさん。ラウンド後には、女性会から冷たいスイカが振る舞われました。

今回特に印象的だったのは、自治会長さんの頑張りです。社協にも相談に来られ、遊具の準備

や当日の流れなど、目配り・気配りでリーダーシップを発揮されていました。

千種町では、今年度から敬老会が自治会単位で取り組まれます。自治会長さんの頑張りを社協職員は応援します。

(千種支部 波多野好則)



女性会からスイカのおもてなし。暑い日に食べるスイカは格別です(中ノ宮神社)



「ここに当てたらあかんぞ!」…スカットボールに熱が入ります(千種小体育館)

～メイプル福祉まつり～
社協のふくしバザー
ボランティア&物品募集

9月29日(金)
 までにお届け
 ください!

昨
 年
 の
 「
 社
 協
 の
 ふ
 く
 し
 バ
 ー」
 の
 様
 子



波賀町の福祉拠点「メイプル福祉センター」で、今年も“メイプル福祉まつり”を開催いたします。
「社協のふくしバザー」では、当日お手伝いいただけるボランティアさんと出品する品物を募集しています。バザーの売上金は、宍粟市善意銀行でお預かりし、宍粟市の地域福祉活動に活用させていただきます。

日 時 10月1日(日)午後1時～4時

会 場 メイプル福祉センター

内 容 健康チェックコーナー

社協のふくしバザー

メイプル子どもひろばオープンデーなど

問合せ 波賀支部 ☎75-3631



**「まなびっとクラブ」の
 車いす体験をサポート**



普段は当たり前に買
 い物しているお店でも
 車いすで入ると:
 (Aコープちくさ店)

8月21日(月)、まなびっとクラブ(千種小)の児童9人と、地元の中学生・高校生3人がエーガイヤちくさ(社協)にやってきました。

最初に、福祉や障がいについて説明を受け、体験する車いすの操作や試乗を二人一組で行いました。その後、エーガイヤ周辺で試走し、Aコープちくさ店(約200m)まで出かけました。

中学生・高校生はサポーターとして関わり、児童たちに声をかけをしたり操作を見守り、「段差や坂道、狭い通路では、車いすの扱いが大変そうだった」「児童たちが安心して体験出来るよう心掛けました」といった感想が聞かれました。

短い時間でしたが、サポーターとして学んだことや気づいたことを、2学期からの学校生活に活かして下さい。(千種支部 小原志のぶ)

地域をもっと元気に!そば作り体験!
 ～セカンドライフ応援セミナー～



「なかなか力加減がむずかしいな」
 (メイプル福祉センター)

退職世代を対象に地域活動への参加を応援する「セカンドライフ応援セミナー」(4回コース)。

8月23日(水)、2回目となるこの日は、「食」を通じた集いの場や居場所づくりに役立ててもらうために、波賀町今市のみなさんを講師に「**そば作り体験**」を行い、参加者がチャレンジしました。

「包丁も重く、均等に切るのは難しいな!」「なかなか出来栄やで!」と、汗を拭いながらそばが完成し、試食をしながら「**自分たちの地域でも出来たらいいな～**」との声が多く聞かれました。

残された2日間のセミナー(認知症とご近所サポーターについて学ぶ)終了後には、今回の経験や技術を地域活動に活かしていただければと思います。今後のみなさんの取組みが楽しみです。

(生活支援コーディネーター 猪尾公子)

～災害ボランティアネットワーク～

**災害図上訓練
 「DIG」で
 防災マップ作り**



8月25日(金)、宍粟防災センターにおいて、災害ボランティアネットワークが**災害図上訓練「DIG」**を行いました。

訓練には、社協職員も参加し、市内4町ごとの大きな地図を囲み、グループで話し合いながら道路や河川、避難所、危険な場所等を地図に書き込み、防災マップを作りました。

「DIGで学んだことを地域へ発信していきたい」「自治会や隣保単位で行うことが大切」との声がメンバーから聞かれ、**地域の危険性を知り、人を知り、対応を考えていくことの重要性**を学ぶ機会となりました。

今後も、防災意識を高めていく取り組みに関わりながら、メンバーのみなさんと共に学び、地域へ発信できるよう努めていきます。

(山崎支部 秦亜里彩)

※Disaster(災害)、Imagination(想像)、Game(ゲーム)を略して「DIG(ディグ)」と読む